



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和5年 第31週 (7/31~8/6) 【概要版】

令和5(2023)年 8月10日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- (1) ヘルパンギーナは、減少傾向が見られ、警報解除基準を満たしたため解除となります。
- (2) インフルエンザおよびA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、「例年より非常に多く」報告されていますが、いずれも前週より減少しています。
- (3) 梅毒は、累計48例の報告があり、過去最多となった昨年の同時期(38例)を上回っており、過去最多ペースで感染が拡大しています。主に性的接触で感染し、オーラルセックスやアナルセックスでも感染します。感染のリスクを減らすため、コンドームを適切に使用しましょう。皮膚や粘膜に異常を認めた場合は、性的な接触を控え、早めに医療機関を受診して相談しましょう。症状がなくても、心配な性的接触があった場合には、保健所で無料・匿名で検査を実施していますのでご相談ください。

2. 報告数が多かった定点把握疾患（五類感染症）ⁱ

(1) 滋賀県

疾病名	滋賀県						保健所別（iv）						
	2週前	1週前	今週	警報 注意報 （ii）	例年より 多い （iii）	例年より 非常に多い （iii）	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
感染性胃腸炎	2.39	2.39	3.19		○		↑		↑		多	多	多
ヘルパンギーナ	3.14	2.39	1.75		○			↑				多	多
RSウイルス感染症	1.61	1.00	1.00				↑	多	↑	多	多		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.17	1.78	1.00		○	○				多		多	
インフルエンザ	1.50	1.93	0.97		○	○	↑			↑		多	

(2) 前週の全国、滋賀県および近隣府県の状況（下線：滋賀県よりも多い）

疾患	全国	滋賀県	大阪府	京都府	福井県	岐阜県	三重県
感染性胃腸炎	<u>3.26</u>	2.39	<u>2.96</u>	2.08	<u>3.08</u>	<u>2.53</u>	<u>3.96</u>
ヘルパンギーナ	<u>4.34</u>	2.39	2.28	1.57	<u>3.20</u>	<u>4.04</u>	<u>4.13</u>
RSウイルス感染症	<u>2.25</u>	1.00	<u>1.19</u>	<u>1.04</u>	<u>1.52</u>	<u>1.98</u>	<u>4.84</u>
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.32	1.78	<u>2.16</u>	1.69	1.72	1.06	0.58
インフルエンザ	1.64	1.93	0.92	0.87	0.05	0.26	<u>2.42</u>



3. 全数把握疾患（滋賀県、今週診断例）

類型	疾病名	滋賀県					保健所別						
		2週前	1週前	今週	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
二類	結核	1	0	2			1				1		
三類	腸管出血性大腸菌感染症	0	2	2				1				1	
四類	レジオネラ症	0	2	1	○		1						
五類	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	1				1					
五類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	1	○		1						
五類	水痘(入院例)	0	0	1	○							1	
五類	梅毒	2	3	3	○	○	2		1				

i. 定点把握疾患：人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。

ii. 警：警報発令、注：注意報発令

iii. 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均を利用)

iv. 「警」：警報開始基準を超過、「注」：注意報基準を超過、「多」：今週の滋賀県の値よりも多い、「↑」：前週比増加(「警報」、「注意報」、「多」、「↑」の順に優先して標記)

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和 5 年第 31 週 (7/31~8/6) 【詳細版】

令和 5 (2023) 年 8 月 10 日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

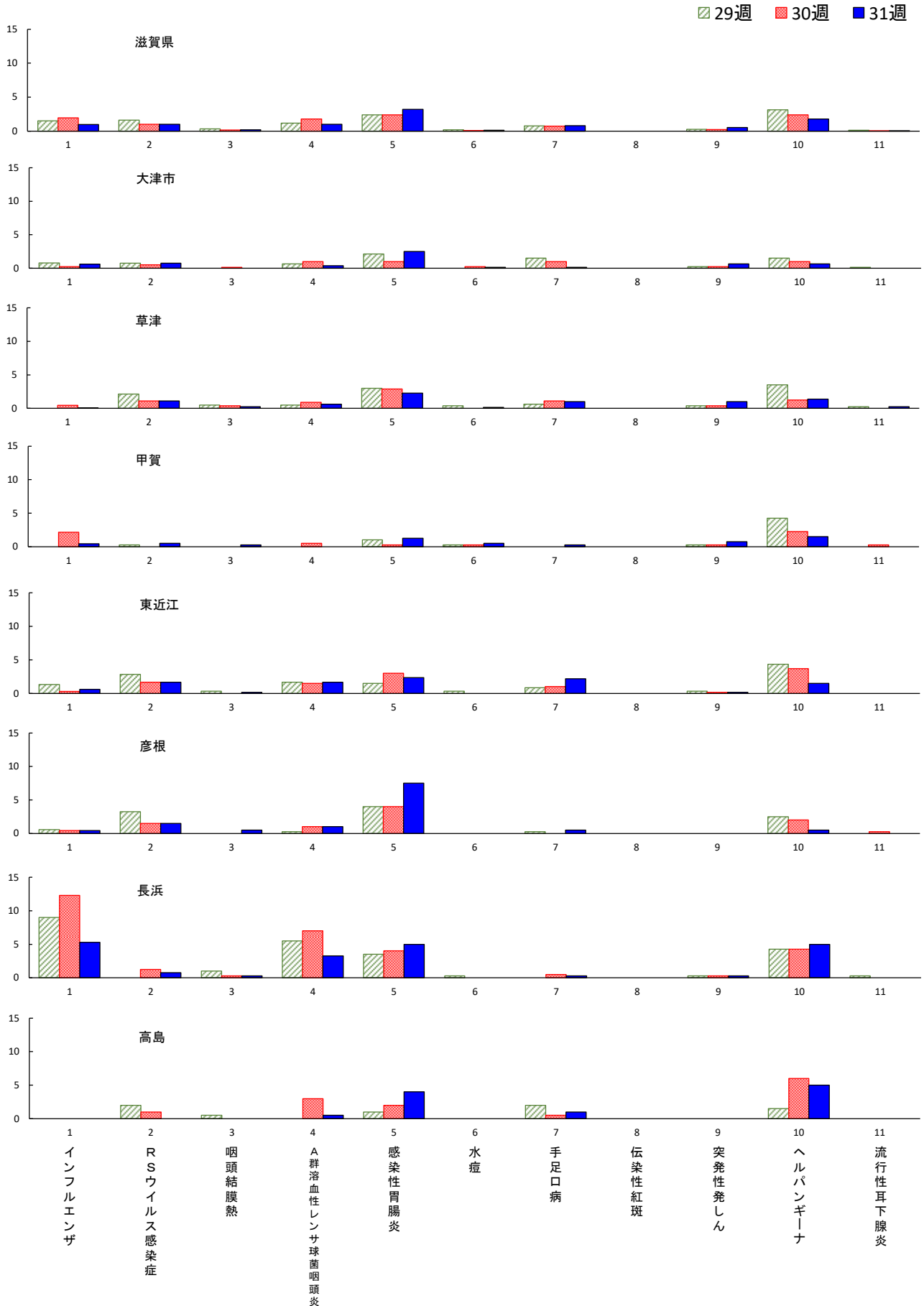
- (1) ヘルパンギーナは、減少傾向が見られ、警報解除基準を満たしたため解除となります。
- (2) インフルエンザおよびA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、「例年より非常に多く」報告されていますが、いずれも前週より減少しています。
- (3) 梅毒は、累計 48 例の報告があり、過去最多となった昨年の同時期(38 例)を上回っており、過去最多ペースで感染が拡大しています。主に性的接触で感染し、オーラルセックスやアナルセックスでも感染します。感染のリスクを減らすため、コンドームを適切に使用しましょう。皮膚や粘膜に異常を認めた場合は、性的な接触を控え、早めに医療機関を受診して相談しましょう。症状がなくても、心配な性的接触があった場合には、保健所で無料・匿名で検査を実施していますのでご相談ください。

2. 定点把握疾患（五類感染症）の定点当たり報告数（全国は前週）の値 ^{i, ii, iii, iv}

定点区分 (定点数)	疾病名				滋賀県			保健所別 (iv)							全国 (前週) (iv)	基準値		
		2週前	1週前	今週	警報 注意報 (ii)	例年より 多い (iii)	例年より 非常に多い (iii)	大津 市	草 津	甲 賀	東 近 江	彦 根	長 浜	高 島		警報 開始	警報 終息	注意報
インフルエンザ (定点数: 60 [※])	インフルエンザ	1.50	1.93	0.97		○	○	0.62	0.08	0.43	0.60	0.43	5.29	0	1.64	30	10	10
小児科 (定点数: 36)	RSウイルス感染症	1.61	1.00	1.00				0.75	1.13	0.50	1.67	1.50	0.75	0	2.25	—	—	—
	咽頭結膜熱	0.31	0.14	0.19				0	0.25	0.25	0.17	0.50	0.25	0	0.53	3	1	—
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	1.17	1.78	1.00		○	○	0.38	0.63	0	1.67	1.00	3.25	0.50	1.32	8	4	—
	感染性胃腸炎	2.39	2.39	3.19		○		2.50	2.25	1.25	2.33	7.50	5.00	4.00	3.26	20	12	—
	水痘	0.19	0.08	0.11				0.13	0.13	0.50	0	0	0	0	0.10	2	1	1
	手足口病	0.75	0.72	0.78				0.13	1.00	0.25	2.17	0.50	0.25	1.00	1.27	5	2	—
	伝染性紅斑	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.02	2	1	—
	突発性発しん	0.25	0.22	0.50		○	○	0.63	1.00	0.75	0.17	0	0.25	0	0.25	—	—	—
	ヘルパンギーナ	3.14	2.39	1.75		○		0.63	1.38	1.50	1.50	0.50	5.00	5.00	4.34	6	2	—
	流行性耳下腺炎	0.11	0.06	0.06				0	0.25	0	0	0	0	0	0.06	6	2	3
眼科 (定点数: 8)	急性出血性結膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.01	1	0.1	—
	流行性角結膜炎	0	0	0.13				0.50	0	0	0	0	0	0	0.50	8	4	—
基幹 (定点数: 7)	細菌性髄膜炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.02	—	—	—
	無菌性髄膜炎	0.14	0.14	0.14		○	○	0	1.00	0	0	0	0	0	0.04	—	—	—
	マイコプラズマ肺炎	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.04	—	—	—
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.01	—	—	—
	インフルエンザ入院	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0.32	—	—	—

- 定点把握疾患: 人口および医療機関の分布等を勘案して滋賀県が定めた患者定点(医療機関)で患者を診断した場合に、週単位で保健所へ報告される感染症を言い、報告された症例数を患者定点の数で除した「定点当たり報告数」により、発生状況を把握しています。
- 定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の 30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令(「警」)します。また、定点当たり報告数が「注意報基準値」を超えた場合に注意報(「注」)を発令します。
- 今週の値が過去5年の同時期(全数把握疾患は同時期の累積報告数)の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」を標記(定点把握疾患の平均値は過去5年間の前週、当該週、後週の合計 15 週の平均を利用)
- 赤字斜字:** 警報開始基準を超過、**紫字斜字:** 注意報基準を超過

3. 定点把握疾患（五類感染症）の保健所別推移（滋賀県、今週と過去2週）



4. 定点把握疾患（五類感染症）の年齢階級別報告数（滋賀県、今週）

インフルエンザ定点 (60医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
インフルエンザ	58	-	-	1	-	3	10	7	4	5	4	2	9	4	4	3	-	-	2	-	-
大津市保健所	8	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	3	2	-	-	-	-	-
草津保健所	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
甲賀保健所	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
東近江保健所	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	-	-	-	-	-	1	-	-
彦根保健所	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-
長浜保健所	37	-	-	1	-	3	10	7	2	4	3	1	3	2	-	-	-	-	1	-	-
高島保健所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

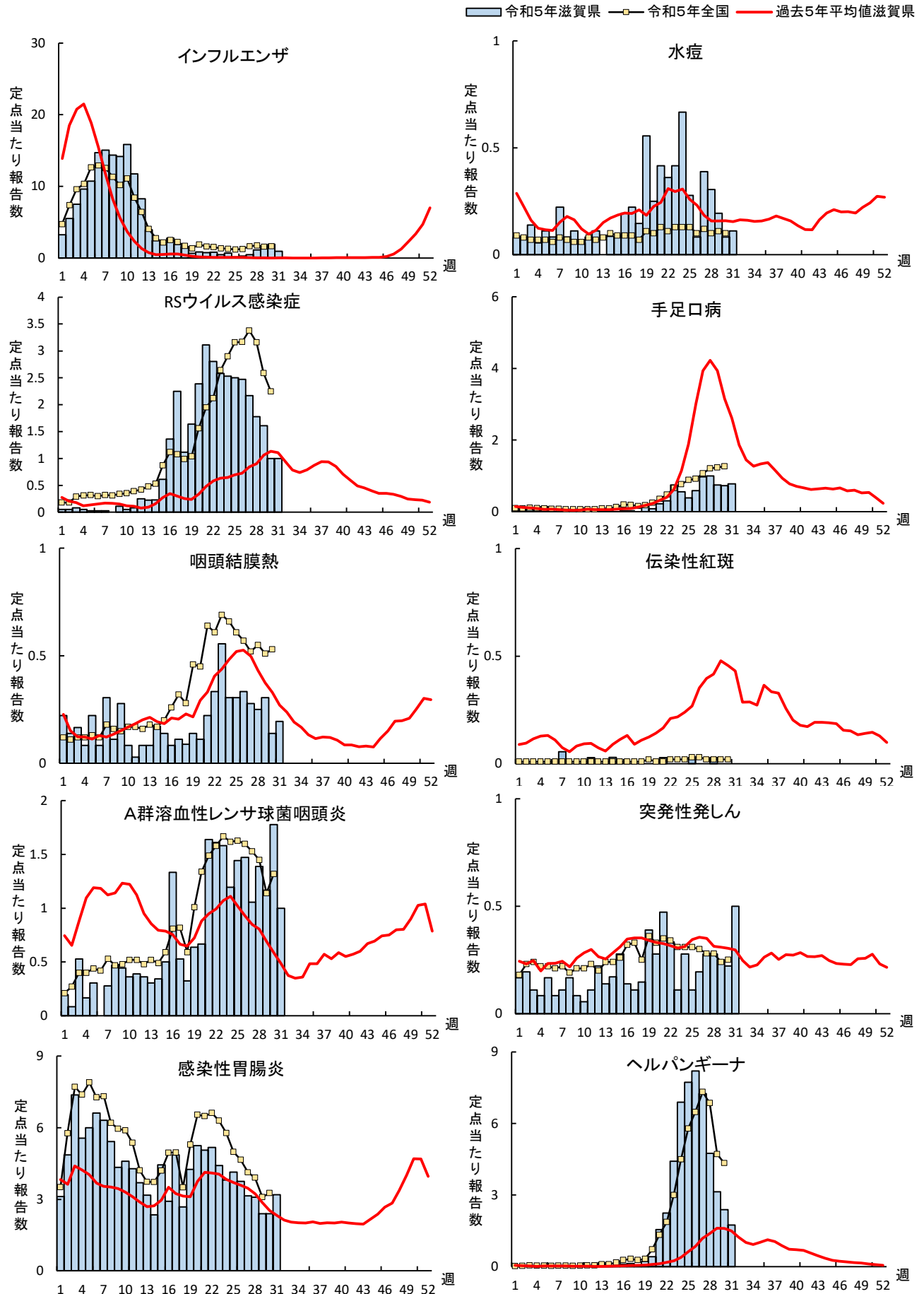
小児科定点 (36医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	36	8	6	13	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱 (プール熱)	7	-	-	2	3	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	36	-	-	1	2	9	5	6	5	3	3	1	1	-	-
感染性胃腸炎	115	2	6	22	14	21	10	8	5	10	7	3	6	-	1
水痘	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2
手足口病	28	-	-	9	4	6	5	1	2	-	-	-	-	-	1
伝染性紅斑 (リンゴ病)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	18	-	6	6	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	63	1	4	14	13	8	8	2	9	2	1	1	-	-	-
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-

眼科定点 (8医療機関)	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-

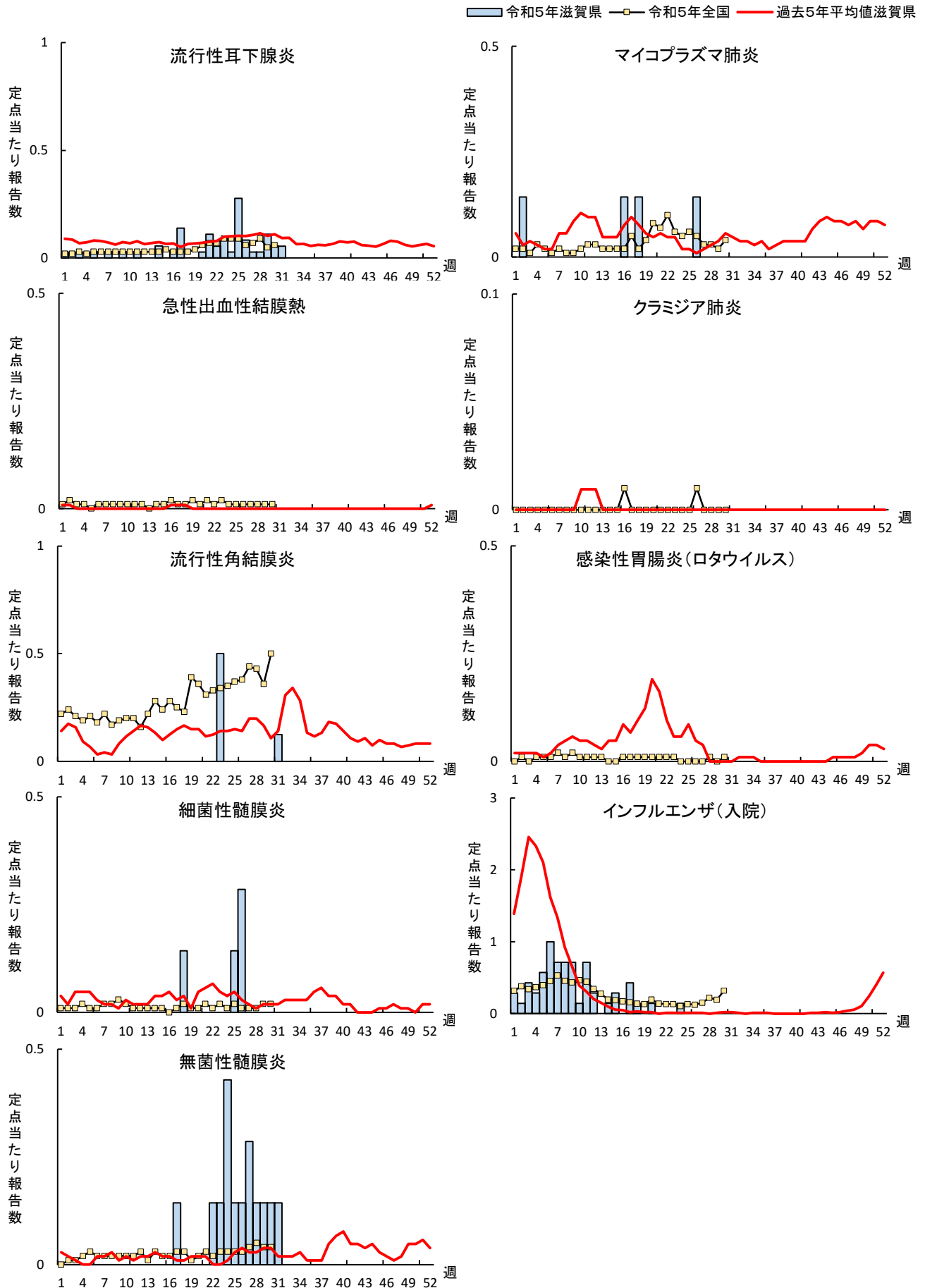
基幹定点 (7医療機関)	総数	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ入院	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

「-」: 報告なし

5-1. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



5-2. 定点把握疾患（五類感染症）の発生動向（全国は前週まで掲載）



6. 全数把握疾患 詳細情報（今週報告例）^v

類型	疾患	診断週	保健所	年齢	性別	病型等	推定感染地	病原体等
二類	結核	31	大津市	50歳代	女	肺結核	-	-
	結核	31	彦根	70歳代	男	無症状病原体保有者	県内	-
三類	腸管出血性大腸菌感染症	31	草津	10歳代	女	-	県内	O157 VT1VT2
	腸管出血性大腸菌感染症	31	長浜	60歳代	男	-	-	O157 VT2
四類	レジオネラ症	31	大津市	90歳以上	男	肺炎型	県内	-
五類	クロイツフェルト・ヤコブ病	31	草津	80歳代	女	古典型クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	31	大津市	40歳代	女	-	-	A群
	水痘(入院例)	31	長浜	30歳代	女	検査診断例	県内	ワクチン接種歴無
	梅毒	31	大津市	20歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	国内	-
	梅毒	31	大津市	50歳代	男	早期顕症梅毒Ⅰ期	国内	-
	梅毒	31	甲賀	50歳代	男	早期顕症梅毒Ⅱ期	-	-

v. 感染症発生動向調査事業において、一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症が、診断した医師から最寄りの保健所へ届出されています。

今週の注目すべき感染症

■ 梅毒

(1) 梅毒に関する Q&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/syphilis_qa.html

(2) 梅毒とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis/392-encyclopedia/465-syphilis-info.html>

■ 新型コロナウイルス感染症

(1) 新型コロナウイルス感染症の国内発生状況等について(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

(2) 新型コロナウイルス感染症に関する滋賀県の状況について(滋賀県)

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kenkouiryuhukushi/yakuzi/309252.html>

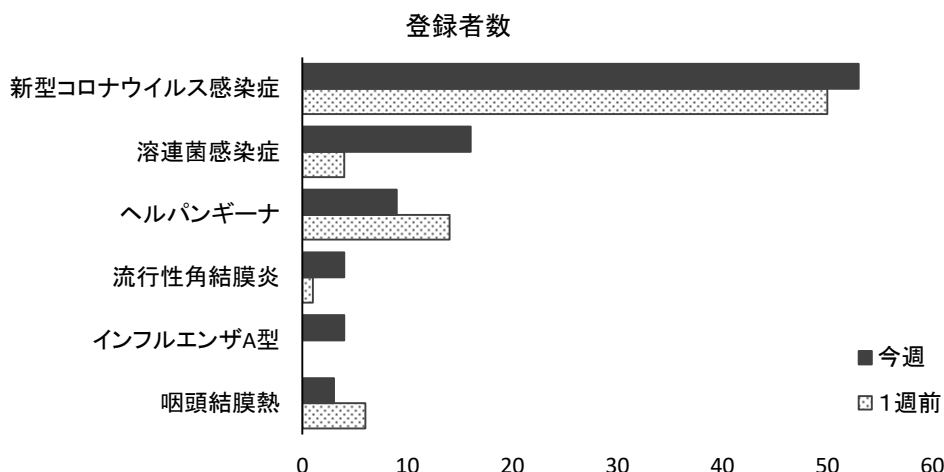
7. 全数把握疾患の累積患者報告数 保健所別（令和5年）^{vi, vii}

疾患	滋賀県			保健所別累積報告数							全国		昨年累積報告数	
	例年より多い	例年より非常に多い	累積報告数	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	（前週）		滋賀県	全国
二類 結核			77	25	14	8	9	9	6	6	7821		158	14784
			5.46	7.24	4.00	5.66	4.00	5.85	4.04	13.28	6.27		11.20	11.78
三類 腸管出血性大腸菌感染症			21	3	5	0	7	3	3	0	1615		46	3376
			1.49	0.87	1.43	0.00	3.11	1.95	2.02	0.00	0.36		3.26	2.69
四類 E型肝炎	○		1	0	1	0	0	0	0	0	353		0	434
			0.07	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.36		0.00	0.35
A型肝炎	○		1	1	0	0	0	0	0	0	32		0	69
			0.07	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.36		0.00	0.05
つつが虫病	○		1	0	0	0	0	0	1	0	108		1	493
			0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.09		0.07	0.39
レジオネラ症	○		18	5	3	1	1	5	1	2	1220		33	2144
			1.28	1.45	0.86	0.71	0.44	3.25	0.67	4.43	0.98		2.34	1.71
五類 アメーバ赤痢			3	2	0	0	0	0	1	0	281		9	536
			0.21	0.58	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.23		0.64	0.43
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症			8	4	1	0	2	0	1	0	1027		20	2010
			0.57	1.16	0.29	0.00	0.89	0.00	0.67	0.00	0.82		1.42	1.60
急性脳炎	○		3	2	0	0	0	0	1	0	305		1	398
			0.21	0.58	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.24		0.07	0.32
クロイツフェルト・ヤコブ病			1	0	1	0	0	0	0	0	83		2	171
			0.07	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07		0.14	0.14
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○		10	4	1	0	2	0	3	0	482		15	744
			0.71	1.16	0.29	0.00	0.89	0.00	2.02	0.00	0.39		1.06	0.59
後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）			1	1	0	0	0	0	0	0	555		5	892
			0.07	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.44		0.35	0.71
侵襲性インフルエンザ菌感染症	○		6	2	1	0	2	0	1	0	314		3	210
			0.43	0.58	0.29	0.00	0.89	0.00	0.67	0.00	0.25		0.21	0.17
侵襲性肺炎球菌感染症	○		17	6	3	0	5	1	2	0	1044		19	1345
			1.21	1.74	0.86	0.00	2.22	0.65	1.35	0.00	0.84		1.35	1.07
水痘（入院例）	○		6	0	1	0	2	0	3	0	224		6	328
			0.43	0.00	0.29	0.00	0.89	0.00	2.02	0.00	0.18		0.43	0.26
梅毒	○	○	48	14	15	8	5	1	5	0	8653		69	13226
			3.41	4.05	4.29	5.66	2.22	0.65	3.37	0.00	6.93		4.89	10.54
播種性クリプトコックス症	○		2	2	0	0	0	0	0	0	102		2	158
			0.14	0.58	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08		0.14	0.13
破傷風	○	○	1	0	1	0	0	0	0	0	58		0	96
			0.07	0.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05		0.00	0.08
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○		1	1	0	0	0	0	0	0	77		0	132
			0.07	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06		0.00	0.11
百日咳			9	9	0	0	0	0	0	0	534		10	500
			0.64	2.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.43		0.71	0.40
薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	○	1	0	0	0	0	0	1	0	11		0	13
			0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.01		0.00	0.01

- vi. 今年第1週以降に診断された感染症の累積報告数を全国、滋賀県および保健所別に示しています。上段に「今年累積報告数」、下段に「人口10万人当たりの累積報告数」を示しています。
- vii. 今年と過去5年の同時期の累積報告数の「平均値」より多い場合に「例年より多い」、または「平均値+2×標準偏差(SD)」より多い場合に「例年より非常に多い」と評価してそれぞれ「○」で標記

【参考】今週の学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）概況（滋賀県）

滋賀県では、園および学校等により、感染症による欠席者等の情報を学校等欠席者・感染症情報収集システム(https://scl11.953862.net/schoolkoukai/view_all.php)へ毎日入力いただいています。入力いただいたデータを、本感染症週報と同期間について、集計して掲載しています。



図：学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）において登録数の多い疾患

【全国情報】国立感染症研究所 感染症疫学センターHPに掲載されています。

感染症発生動向調査 週報 (IDWR) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>
 病原微生物検出情報 (IASR) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>
 インフルエンザ様疾患発生報告 (学校欠席者数) <https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-flulike.html>

【届出対象疾患】厚生労働省 HP に掲載されています。

感染症法に基づく医師の届出のお願い
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou11/01.html

滋賀県感染症発生動向調査週報は、感染症法に基づいて県内の医師、定点医療機関および県内各保健所より報告されたデータを用いて、滋賀県衛生科学センター健康科学情報係において作成しています。

本情報は滋賀県感染症情報センターホームページに掲載しております。

滋賀県感染症情報センターHP:

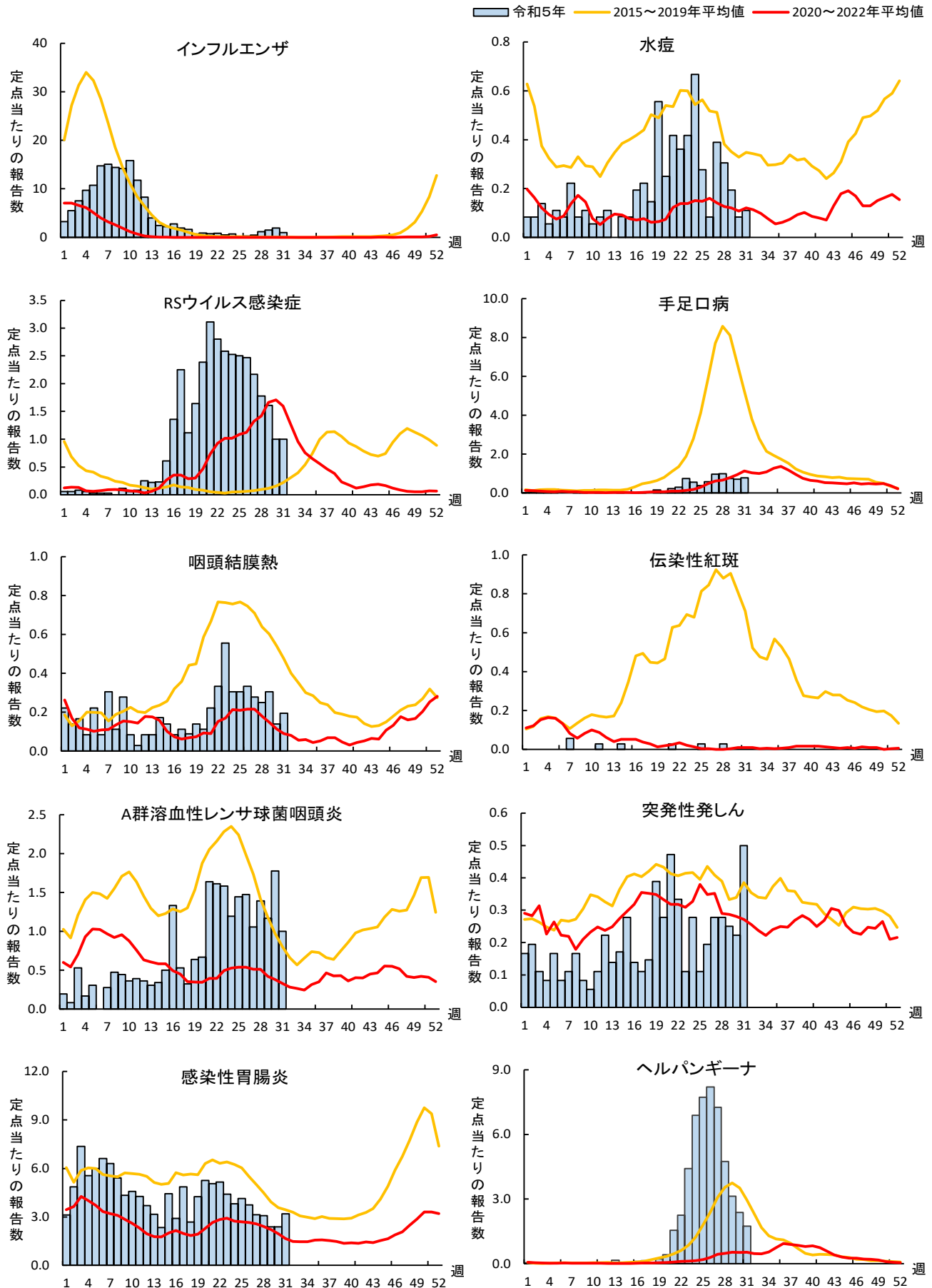
<https://www.pref.shiga.lg.jp/eiseikagaku/kansensyou/>

イラストは滋賀県健康づくりキャラクター「しがのハグ&クミ」

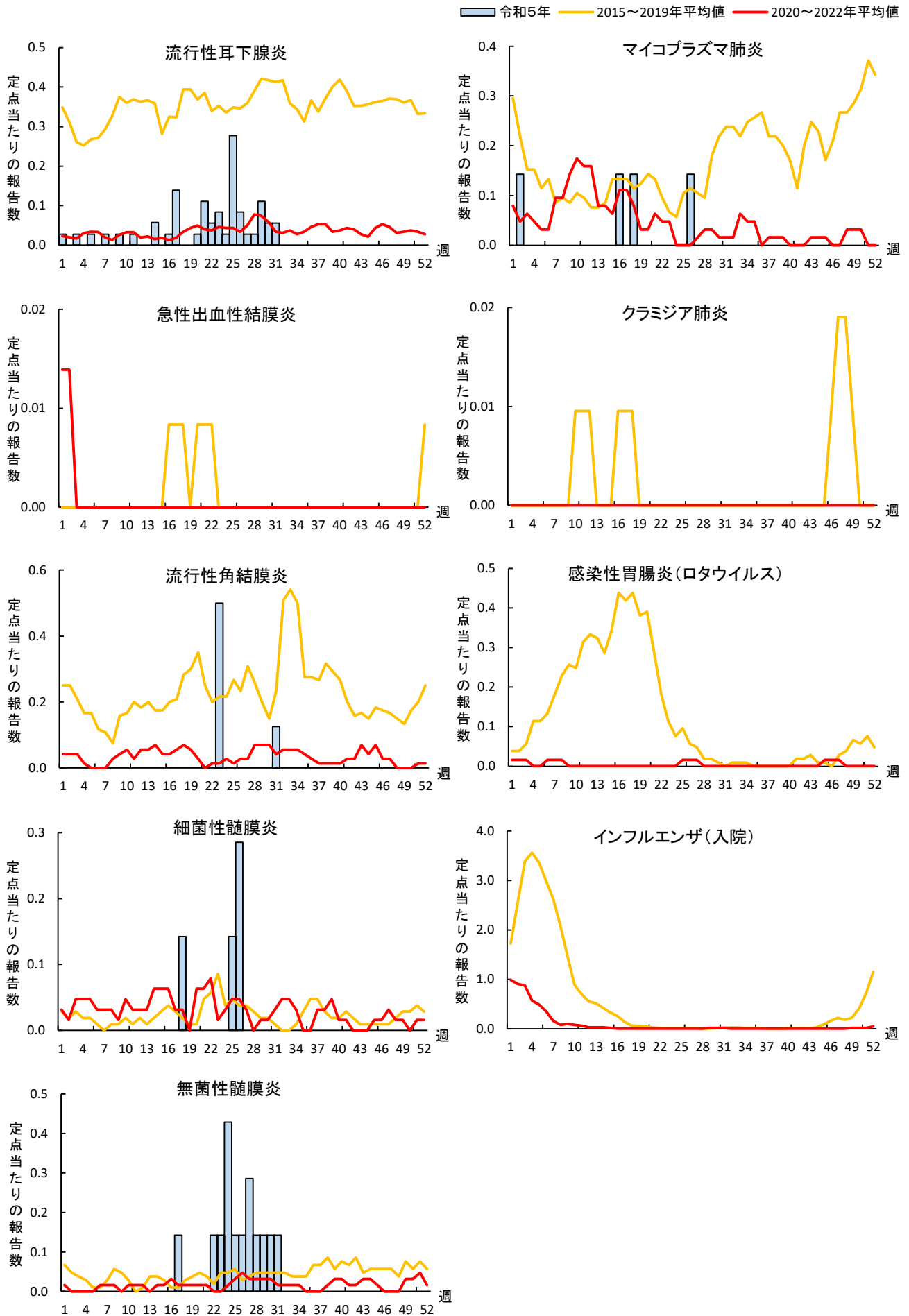


【参考】定点把握疾患の発生動向（滋賀県、令和5年とCOVID-19 前後の平均値）

COVID-19 流行により 2020 年以降の感染症発生動向に変化が見られたため、今年の発生動向と流行前(2015～2019 年)と流行後(2020～2022 年)の発生動向を比較できるようにグラフを掲載します。



【参考】 定点把握疾患の発生動向（滋賀県、令和5年とCOVID-19前後の平均値）



滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和5年第31週(7/31~8/6)【COVID-19情報】

令和5(2023)年8月10日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- ・滋賀県の定点当たりの報告数は、横ばいで推移しています。年齢別では10歳未満および70歳以上で増加傾向が見られます。
- ・咳などの風邪症状がある場合はマスクを着用する(咳エチケット)、手洗いをする、換気をするなど基本的な感染対策をお願いします。夏休みやお盆の帰省等で、重症化リスクが高い方(高齢者、基礎疾患がある方等)と会う場合は、特に感染対策をお願いします。

2. COVID-19の定点当たり報告数(全国は前週)の値

定点当たりの報告数とは、定点医療機関からの1週間の報告数を定点医療機関数(COVID-19は60)で割った値のことで、1医療機関当たりの報告数のことです。(例:1週間の報告数200 ÷ 60 ≒ 3.33)

疾病名	滋賀県			保健所別							全国 (前週)
	2週前	1週前	今週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
新型コロナウイルス感染症	15.28	14.90	15.23	25.46	12.46	11.86	15.20	10.43	9.57	15.33	15.91

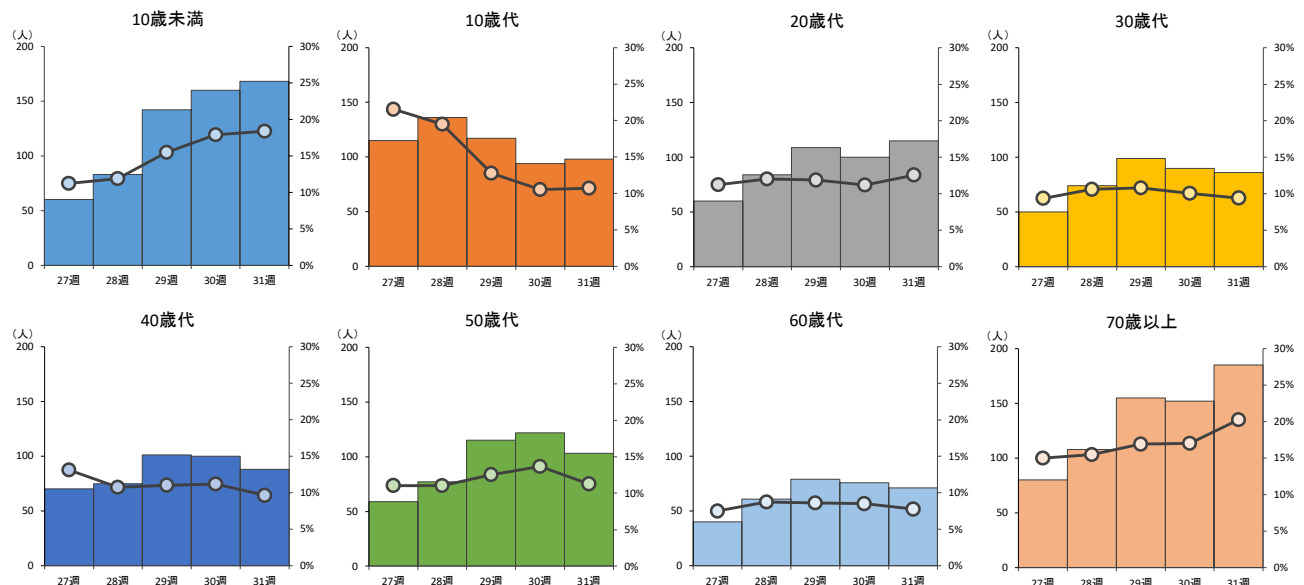
3. COVID-19の年齢階級別報告数(滋賀県、今週)

「-」:報告なし

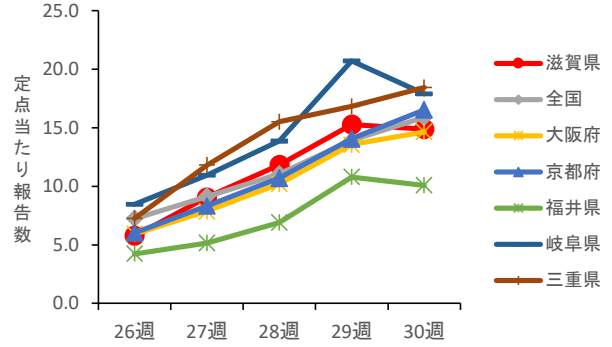
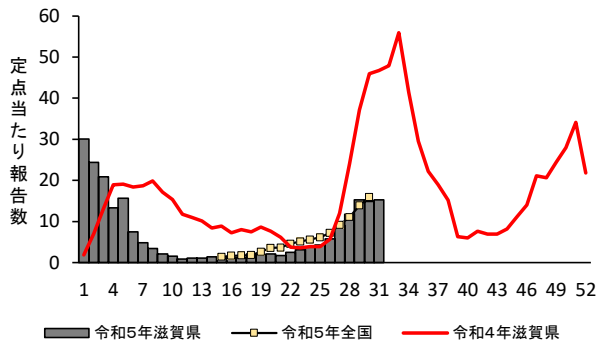
COVID-19定点	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳～
滋賀県 (60医療機関)	914	5	14	22	12	13	15	20	13	19	16	19	61	37	115	86	88	103	71	77	108
大津市保健所 (13医療機関)	331	2	2	6	3	6	10	3	3	4	2	6	13	10	47	32	37	41	28	35	41
草津保健所 (13医療機関)	162	-	1	2	2	-	1	2	6	2	2	5	14	10	26	22	17	21	14	8	7
甲賀保健所 (7医療機関)	83	-	3	-	1	2	-	1	-	1	1	1	1	2	5	11	10	8	12	6	18
東近江保健所 (10医療機関)	152	2	5	9	1	3	2	6	3	4	2	3	15	7	15	5	11	18	7	12	22
彦根保健所 (7医療機関)	73	1	-	-	3	-	-	1	-	4	2	1	5	4	9	8	4	7	5	12	7
長浜保健所 (7医療機関)	67	-	1	4	1	1	2	5	1	2	4	3	6	2	10	4	1	7	1	4	8
高島保健所 (3医療機関)	46	-	2	1	1	1	-	2	-	2	3	-	7	2	3	4	8	1	4	-	5

4. COVID-19の年齢階級別推移(滋賀県)

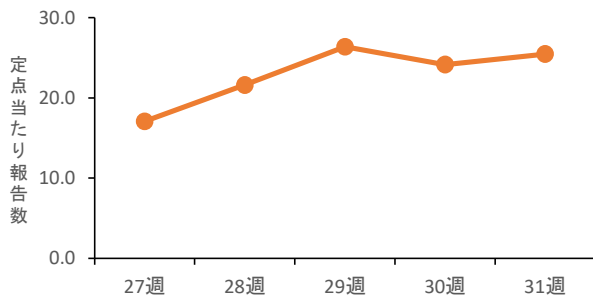
棒グラフ(左軸):報告数(人) 折れ線グラフ(右軸):全年齢に占める割合(%)



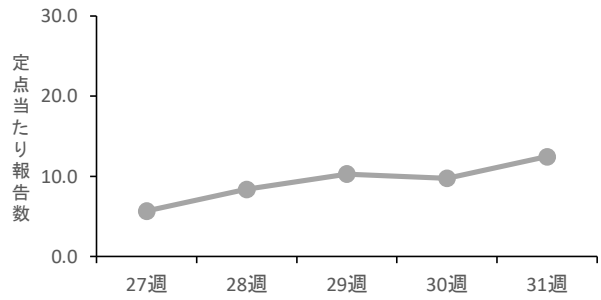
5. COVID-19 の発生動向・保健所別推移等（全国・他府県は前週まで掲載）



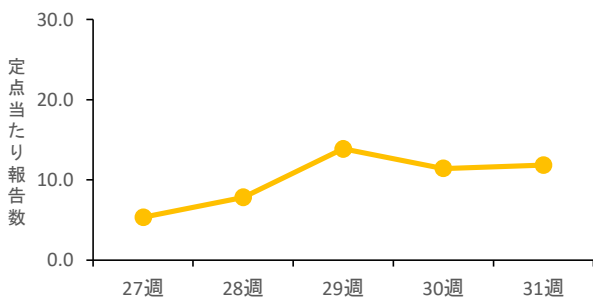
大津市



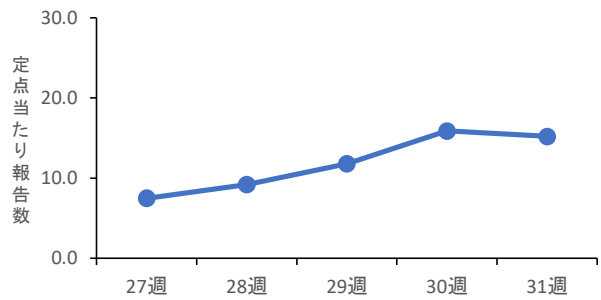
草津



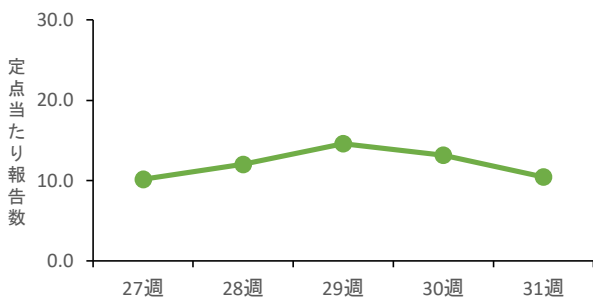
甲賀



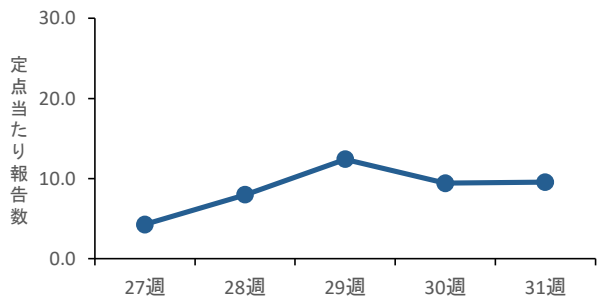
東近江



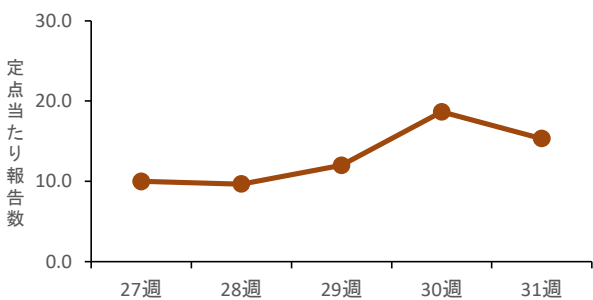
彦根



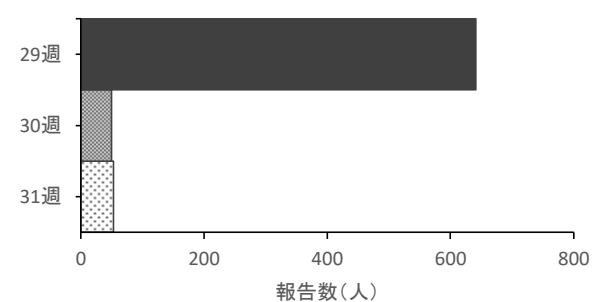
長浜



高島



学校欠席者情報収集システム（滋賀県）



変異株にかかるゲノム解析状況について

健康危機管理課作成
8月6日時点

- 世界的には、XBB.1.9.2系統(EG.5系統含む)が18.9%、XBB.1.16系統が18.4%、XBB.1.5系統が11.6%、XBB.1.9.1系統が9.7%を占めている。
(WHO COVID-19 Weekly Epidemiological Update Edition 154 published 3 August 2023)
- 全国的にはXBB.1.16系統およびXBB.2.3系統が増加傾向にあり、滋賀県でも令和5年5月にXBB.1.16系統、令和5年6月にXBB.2.3系統が検出された。
- 滋賀県では、令和5年7月時点ではXBB系統が全体の89.5%(うちXBB.1.16系統は42.1%、XBB.1.9.2系統(EG.5系統含む)は18.4%、XBB.1.9.1系統は15.8%、その他XBB系統は13.2%)を占めており、感染の主流系統となっている。
- WHOは、令和5年8月9日にXBB.1.9.2系統の一種であるEG.5系統を注目すべき変異株として指定したが、入院患者数や死亡者数が増加しているとの情報はない。今後の発生動向を注視する必要がある。(WHO adds Omicron EG.5 to variant monitoring as global COVID markers decline further Lisa Schnirring, July 21, 2023)

ゲノム解析結果(検体採取日別 月報)

